

第16回総合計画策定審議会議事録

日時：平成27年5月8日午後1時30分

場所：伊予市生涯研修センター「さざなみ館」第1研修室

出席者：青野光委員、井川一郎委員、今井健三委員、大森幸子委員、奥村やよい委員、笹木篤委員、田頭孝志委員、武智英一委員、武智英明委員、橘慶子委員、玉井彰委員、西村道子委員、橋本千春委員、松本良太会長、向井桂委員、山崎由紀子委員

欠席者：重松安晴委員

事務局（空岡・小笠原・岡井・向井）

1 開会

（会長）

皆さんこんにちは。第16回になる審議会を開会する。今回から3回にわたりワークショップ形式の審議に入る。

2 議事

（1）総合計画の重点プロジェクト（事業）を考えるワークショップ

（業者）

会長から紹介のあったとおり、これから3回にわたり、ワークショップ形式で皆さんにいろいろ審議・議論をいただくこととなる。お手元の資料「総合計画の重点プロジェクト（事業）を考える審議会（WS）」を使って、会の進め方（流れ）を説明する。テーマごとに審議していただくというのは、前回お話しした。本日は都市基盤（1テーブル）と福祉・保健・医療（2テーブル）の2つのテーマに分けて、議論いただく。このグループ分けは前回相談いただいたとおりであり、2時間のプログラムで進めていきたい。

資料にプログラム（右図参照）とあり、今2.の説明をしている。この後、情報提供として、事前に配布している市の取組や計画に係る資料に関し説明を行う。その内容を頭に入れてもらい、テーブルごとで実際のワークショップ作業に入ってもらおう。4.事業評価は、第1次総合計画に基づく主要な取組事業について、どの

プログラム

1. 開会、あいさつ
2. 本日のプログラム説明
3. 情報提供
4. 事業評価
5. これからの”いよ“の
ためにできること
6. 発表、まとめ
7. 閉会

程度満足し、どの程度評価ができるのか、皆さんに評価していただく作業をお願いしたい。方法については後ほど説明するのだが、ここで、その後に議論いただく5.を検討するに当たっての事前情報をインプットしていただきたい。

5.においては、3.情報提供や4.事業評価を振り返っていただいたことを踏まえ、これから“いよ”が発展していくために、どんなことに取り組めばいいのか議論いただき、市民目線・行政目線でどういう取組ができるのか、どんなことが大事なのか、いろいろ議論して出していただきたいと思う。その作業を一通りやった後、各テーブルの議論内容を発表いただき、引き続きディスカッションしたいと思う。

それでは、お手元に様々な資料が配られている。市から情報提供をお願いする。

(事務局)

ワークショップの実施に当たる情報提供として、事前に送付した参考資料等の説明を行う。

・参考資料①第1次総合計画（関係記述抜粋）

総合計画から都市基盤の整備、福祉の向上と保健医療の充実に関する体系図、基本構想、基本計画部分を抜粋したもの

・参考資料②新市建設計画から見た合併後の伊予市の主要な事業

平成17年の市町合併後に取り組んできたもの、今後取り組む予定の主要な事業の実施年度及び計画当初の概算事業費を記載したもの（全ての分野に関する事業を掲載している。）

・参考資料③成果調書から見た都市基盤の整備、福祉の向上と保健医療の充実

各種施策の目標を達成するために行った主要な事業の達成度合いを数値で表したもの（数値で表せない事業も多くあるため、全ての実績は示せていない。）。主な事業の実施傾向や推移を見る資料として活用いただきたい。

・第1回市民ワークショップnews!

3月21日（土）開催した、市民ワークショップ1回目の実施状況をまとめたもの。この回のテーマは高齢化と子育てについて。参加者が高齢化や子育てに関する意見や感想を交えた自己紹介を行った後、高齢者の暮らしと子育てに関して地域の協力で解決できる問題、地域では解決できない（行政が取り組むべき）問題に分類、整理をし、発表いただいたものをまとめている。

・過疎地域自立促進計画

人口の著しい減少に伴って地域社会の活力が低下し、産業及び生活環境の整備等が他の地域に比較して低位にある地域について、総合的かつ計画的な対策

を実施することにより、地域の自立促進を図り、もって住民福祉の向上、雇用の増大、地域格差の是正及び風格のある地域の形成を目指すために定めているもの

- ・ 都市基盤の整備分野・・・総合都市交通計画（都市計画道路等について定めたもの）、景観計画（良好な景観等を維持するための取組を定めたもの）
- ・ 福祉の向上及び保健・医療の充実分野・・・高齢者保健福祉計画、第6期介護保険事業計画（市民一人ひとりが高齢になっても健康で生き生きと暮らせる地域社会の構築を目指し策定されたもの）、子ども・子育て支援事業計画（平成24年8月に制定された子ども子育て関連三法に基づき、平成27年4月から始まった新たな支援制度を推進するために策定されたもの）、第2次健康づくり計画（高齢化、生活習慣病増加に伴う医療と介護、心の問題など新たな健康課題に対応するために策定されたもの）

事前に送付しているので、お読みになられた方もおいでると思う。これからのワークショップにてご活用いただければと思う。

（業者）

すごい量の資料を駆け足で説明されたので、皆さん目を通す時間はないかと思うのだが、作業をしながら、必要なところを見ていただきたいと思います。

それでは、これから事業評価に入る。皆さんのテーブルに縦軸横軸のグラフのような施策評価シートというものを置いている。合わせて、短冊形の紙を置いている。これには、各分野の主な取組事業が書かれている。内容について分からないものについては、各テーブルにテーマに関連する職員が付いているので、説明を聞きながら評価いただければと思う。都市基盤は17項目の評価対象事業があり、福祉の向上、保健医療の充実では14事業分の短冊を置いている。その内容を各テーブルで議論いただき、評価シートの横軸の満足度及び縦軸の重要度に応じて、区分いただきたい。それぞれの真ん中に線があり、4つの領域に分かれているのだが、例えば重要度が高くて満足度が低いものについては、必死になって取り組まなければいけない内容になるし、重要度が高くて満足度も高いというものは、今後も続けていけばいいという判断、重要度満足度ともに低いものについては、ちょっと様子見かなと考えていただければと思う。そういう感覚で、それぞれの事業について皆さんの目線で評価いただければと思う。これをやっていただくことにより、伊予市がどんなことをやってきたか、またある分野に関してはどの程度強化できるか、皆さん同じ認識を持っていただきたいと思います。

皆さんのテーブルの中で話し合いをしていただき、満足度、重要度の議論か

ら、貼っていただければと思う。

(委員)

これは中身次第だと思う。今までどっちの方向に動いていて大事だけれど、こっちに見直した方が良いのではないかと。

(業者)

おっしゃるとおりである。それぞれの事業の位置付けは、参考資料②で各分野についての詳細が書かれているので、そちらを参考に見ていただきたい。また、参考資料③においても、それぞれの分野に関連する、取組内容の結果をまとめているので、参考にしながら議論いただきたいと思う。

もう一点、テーブルごとに参考資料として、平成25年に行った市民満足度調査の結果を置いている。その分野についての結果も参考にしながら、今ある表に貼っていただきたいと思う。よろしいだろうか。

(委員)

都市基盤のワークショップは、今日1日だけである。次回は17回、18回と全然テーマが違おうだろう。通常一つのテーマを2時間のワークショップ3回程度でやるのが普通だと思うのだが、本日のワークショップで考える時間はたったの40分である。その40分でまとまらない場合は、延期というか、こういうワークショップをもう1回というスケジュールはできるのだろうか。第10回の委員会で決めたスケジュールどおりでは多分余裕がないと思う。月2回とか行うことは可能だろうか。

(事務局)

ご質問いただいた件について、多少余裕を見ている。もしまとまらない場合は、もう1回ということも必要かと思う。その点は大丈夫である。10回を15回というのは難しいかもしれないのだが、1回、2回は余分に開催できると思う。

(業者)

それでは、今から必要な取組、事業について話し合ってください。もしまとまらなかった場合は、そういう形で対処させていただければと思う。

それでは今説明した作業を、今から20分から30分の中で行いたいと思うので、よろしくお願いします。先ほど申したとおり、各テーマに関連する市の職員に入ってもらっているのですが、不明瞭な点や聞いてみたい点があれば、質問等していただければと思う。ただ全ての分野について把握しているということではないので、全て答えられない部分もあるかもしれないので、ご了承願いたい。必要なものがあれば、改めて情報提供させていただければと思う。

それでは、テーブルごとに作業を進めていただきたい。テーブルの仕切りは皆さん率先して進めていただければと思う。

【ワークショップ作業13:50～14:20】

(業者)

いかがだろうか。評価自体の貼りこみは済んだだろうか。議論はいろいろ続くと思うのだが、次の作業もあるので、区切りを入れさせていただければと思う、よろしいか。

それでは、次の作業について説明を行う。今皆さんがそれぞれの分野の主要事業について評価いただいた。職員に状況を聞いたり議論したりしたことで、テーマの中にも問題や課題がいろいろ出てきたと思う。それを踏まえて、これからの伊予市の中でどんなことを取り組めばよいか、今出てきた問題や課題を解決するためにどんなことに取り組めばいいのか、今から話し合いをしていただければと思う。今やった評価を見ながら、作業を進めていただければと思う。

具体的には、お手元に黄色い付箋が置いてある。あとサインペンが各人1本ずつあるので、この黄色い付箋に、それぞれのテーマに沿った中でこれから取り組むべきこと、こんな事をやった方がいいだろうという事業やアイデアを書き出していただきたい。各自でいろいろ考えていただき、書いていただいたものをテーブルの中で紹介し、どんなことが必要なのか共有していただければと思う。皆さんのテーブルにあるもう1枚の模造紙は、行政と市民というカテゴリーに分けている。付箋の内容が行政側にやってほしいのか、市民みんなでやっていくのか決めてもらう。両方で取り組むべきという話であれば真ん中に貼るといった形で、主体として誰がやるべきなのかという役割分担を考えていただきたい。

同じようなアイデアが出てきた場合は、まとめて貼りこんでもらってよい。例えば1つのテーマの元にこれとこれはまとめてやればよいという話があれば、それらの付箋を囲んで、青い付箋にそのテーマを書いて貼っていただく。テーマではなく、プロジェクトとしても構わない。よろしいだろうか。

(委員)

このグループのことについて書くのか、それとも何でも書いて構わないのか。

(業者)

各テーブルで評価いただいた内容に関わる分野で話し合っていただきたい。それ以外の内容については、次回以降別のテーマを設定しているので、その時

に取っておいてほしい。

それでは皆さん付箋に書いていただき、各テーブルで出し合って共有していただければと思う。お一人いくつ書いても構わないのだが、ルールを1つだけ。1つの紙に2つ3つのことを書くと分かりにくくなるので、1つの紙には1つのことを書くというルールとさせていただく。

【ワークショップ作業14:30～15:00】

(業者)

まだ議論をされているところもあるようだが、どうだろうか。発表に入ってもよろしいか。それでは、皆さんにいろいろ議論いただいたと思うので、発表していただければと思う。それでは都市基盤の整備のグループから願います。

(委員)

我々は非常に濃いメンバーが揃っているので、一人ひとり説明することとする。

(委員)

まず、浄化槽整備による水質保全、環境整備について。今は伊予市の山あいでは整備できてない地域もあると思う。市が補助金を出してある程度整備しつつあるのだが、もう少し進捗度合いを上げて地域環境の整備促進をしてはどうかという行政へのお願いである。ただ個人負担もあるので、雲行きがどうなるかは分からない。次に森林整備による水資源の保全である。伊予市は特に水資源の少ない市である。中山では森林整備の補助金を頂いて間伐材の整備をしている。これが水資源の源になるので、もう少し促進し、伊予市全体の水質保全に努めてはどうかということを行政にお願いしたい。それから地域環境整備を挙げている。これは生活道や市道、県道の草刈りやガードレールの清掃など、今住民自治で取り組んでいる。行政はお金がないので、これは生活の一環として地域で取り組む、自分たちの地域は自分たちできれいにしようということで、市民の方に挙げている。通行中の車により石が飛び跳ねたりするという危ない面もあるので、その保険代を行政に見てもらおうという方法もある。そうすることで、これは地域で環境整備に努めてはどうかということである。それから中心市街地の活性化促進。これは中心の郡中地区が発展しないことには伊予市全体が発展しない。全体がそれに連なっていくと思うので、中心市街地を活性化させる方法を考えないといけない。

(委員)

私からは、市場から下三谷に続く市道、元の農免道路であるが、あれを県道

に申請してはどうかという提案である。今度上野に松山にあった貨物駅ができるので、あそこまで伸ばし、県会議員にお願いするなどして、県道に昇格してはどうかということである。次に森林は水源と言うのだが、みんな山には行かない。そこで伊予市の銘木のようなものを選定していただくことによって、あそこに大きな杉があるとか、ここに何があるということで、みんなが行くことによって過疎地の活性化につながるのではないかと思う。私の個人の土地でも松山から見に来て写真を撮って帰るということもあったので提案した。それからウェルピア伊予の周辺を市街化区域にすればいいのではないか。あの近辺はスーパーや遊び場もあるので変更してもらいたい。もう一つ、先日地区の総会に出席した際、様子が変わっていた。昔は100%近く農家だったのだが、やはり都市化して農家も少なくなり、一般住民の方が多いのが実情である。自治活動もいろいろ盛んになっており、区長は大変な仕事になっている。中には勤めを辞めて区長に専念した方もおり、うつ病になった方もいる。私は広報区長と土地改良区長を別にしてもらえば良いのではないかと思う。それなら会も負担にならないし、農家も活気が出てくる。松山市もそれできちんとやっているようである。やはり先進地の実際の様子を調べていただきたい。近場でもいろいろ進んだ施設があるので、研修をしたり先進地の意見を聞いたりするのが手取り早い。検討いただきたい。

(委員)

私の提案は、市全体の都市計画づくりである。道路計画をつくり、通過交通と生活道路を使い分ける。中心地区を歩行者専用、優先地域にするということである。中心街の活性化に関して、日本は土地がないからヨーロッパ型で集約しないと行けない。そこで中心街に商と住を集約させる。そこに公営住宅を造り、交通を抑える。今は車がスピードを出して抜け道を突っ走っている状態だから、子どももお年寄りも悠然と歩けない。その危険を除去する上でも通過交通は56号に集中させる。日本の場合こういう大動脈の幹線道路を平気で商業開発するから、交通量は増え排気ガスも増え、そして信号が増える。そうこうするうちにまちが空洞化していくことになる。だから、国道は開発を抑え、市街地は交通を抑えるという両方の痛みを伴うやり方をしなければ市街地の活性化はできない。コンパクトシティ・・・エコシティも同じことで、要は集中すること、ただ集中するといってもなかなか難しいので、地域冷暖房を特別地区として行うという、自然エネルギーを利用したコージェネを提案する。次に、下水の中水化である。中予地域は全般的に水不足であるが、すぐ隣町に世界一の技術を持った大きな会社がある。でも企業をうまく使えていない。飲み水は

上水としてレベルは高くない。トリハロゲンとかいろんな有害物質があって、もう一回浄化しないと安心して飲めない。だけど中水として使うにはきれい過ぎてもったいない。だから下水を中水化するような浄化設備であれば、本当の飲み水ほど高いお金をかけなくてもできるので、それをリサイクルする。中水というのは、トイレを流したり庭に水をやったり、あるいは風呂の水とかに使う。飲み水としての上水は全体の1割くらいである。そういうことをすれば、水不足はほぼ愛媛県内で解消されると思うのだけど、その先行投資ができていない。もしこの水ビジネスを本格化すれば、ヨーロッパでもアラブでもアジアでも、伊予市の水として売っていける。そのシステムを販売できる。市が企業化できる。なかなか難しいけれど、目の前にすごくおいしい企業がいるのに、なぜ使わないのか。とりあえず小さいエリアで特別区を作って、下水の中水化をやってみる。そういう呼び水があれば、中心部に公営住宅を造れば移住者もあるのではないかという、全体の都市計画である。もう一つ、景観計画はあるのだが、景観区域として指定されているのは湊町、灘町のごく一部であり、景観の規制重点地域は旧大洲街道沿いだけになっている。まずはそこからスタートということだったらしいのだが、内子や梶原など、頑張っているまちは町域全体が景観区域である。景観は単に景色だけでなく、景観資源という、歴史や政、わらじづくりやわらぐろづくりとか、いろんな営みそのものを景観資源として指定できるので、まちの中心部に限ったものではない。砂浜もそうだし、山林もそうである。自然景観もそうだし、絶滅危惧種の動植物のいる地域でもいい。そういう広いエリアで景観資源を発掘するのは、まちづくりの種になる。そういう意味で、今の景観計画をもっと活用し、地域全体を計画区域にしてはどうか。市民を巻き添えにしたワークショップで景観資源を発掘し、それをまちおこしにつなげる。そうすれば、次の時点で何らかの国の政策に乗かって、地域全体で助成金を下ろすことができる。そういう仕掛けを作ってはどうかという提案である。最後に防災の観点である。この辺りは活断層のエリアが非常に怪しい。重信くらいまでは割りと明確に地図が出ているのだが、この辺りから佐田岬半島まで、原発があるからあやふやにしているのかは分からないのだが、海岸線のところが非常によく分からない。伊予市役所を通っている絵もあるし、郡中小学校を通っているような絵もある。とにかく調査されていないのだと思う。それだけではなく、先般広島で起こったような土砂災害は元々地盤が悪い軟弱地盤だったり川跡だったりする。この辺だと洪水や津波などいろんな水害がある。そういうマップを重ねれば、弱点が見えてくる。ネパールでもある地盤では非常に揺れが強かったようであり、地盤によって揺れ方

が変わってくる。地盤によっては、コンクリートが良い場合もあれば木造が良い場合もある。固有周期が違うという元データが全くない状態なので、本来防災計画は立てられないはずである。まずはその元データを調査すべきである。それに基づいて都市計画を作る。危ない所にはあまり人が住まないようにして、公園化する。公共施設は防災拠点になり得る建物なので、分散配置をし、連携網や情報網を整備する。地面から下の調査をした上で、都市計画と防災計画の公共施設の分散配置をして、今言った都市計画に落とし込み、整合性を持たせることに尽きると思う。やり方は東北の大震災で出揃っているのだが、その組み合わせが日本ではできていないと思うので、是非それを提案したい。後は山間部の集落計画と景観資源、これも景観計画の話で出てくるのだが、例えば小さな広場とか神社脇のちょっとした広場がコミュニティの場になる。景観資源は里山や漁村にいっぱいあると思うので、そういったのを元にして、景観資源化あるいは観光資源化を周辺でやるといいと思う。

(委員)

私は地域の道路と公園整備に絞って書いてみた。まずは地域の道路、生活道路である。現状の課題として、過疎化、人口減少、そして道路等々のインフラ老朽化等があると思う。これらによりさらなる人口減少に拍車がかかるので、基本方針としては、少ない投資で一定の効果が表れるインフラ整備をするということである。具体的には、地域住民によるインフラ維持管理体制、市から地域への資本・資金援助ということを提案した。次に公園整備である。いまや公園は保育園、幼稚園と並んで迷惑施設だそうである。事実東京では噴水で遊ぶ子どもの声がうるさいということで、噴水が止まった裁判事例もある。公園整備の方針というと、市が候補地を2つか3つ選び、投資効果が高いところに公園整備をするケースが多いのだが、逆の方がスムーズにいくと思う。つまり、地域住民がここに公園を造ってほしいと地域の同意を得た後、公園担当課がその土地を買収もしくは借地をして公園整備を図るという方法である。住民意思の統一、市民による用地選定の後、公園整備要望を市に上げ、公園整備の実施工事を行うという方法が良いのではないかと提案である。

(委員)

森林の保水力を高めるために、林業を何でやらないかということ、生活がかかっているんで、どうしてもお金の問題が出る。そこで、市民の税金でそれを応援する。その代わり森を守ってもらい、水資源を確保していただくということを提案する。それから中山インターの話があった。そこにインターがあれば、中山から双海を回る道を整備し、最終的に伊予インターから帰るルートを作れ

ば、観光ルートができるのではないかと、伊予市の資源になるのではないかと
思う。だから中山インターは造ってもらわないと、現在のままでは中山が通過点
になってしまい死んでしまう。それから、空き家については市がもらうことと
する。使い方はみんなで考えれば良い。公園整備も入るし、火災の緩衝地にも
なる。いろんな意味で安全のためにも良いのではないかと。それから以前にも出
たとは思っているのだが、節水に対するいろんな方法を考えること。今も補助金を出
しているとは思っているのだが、例えば建築段階から雨水利用の家を建てる構造にし
たら補助金が出るとか節水コマの導入とか、そうではなくて、総合トータルの
節水をする。それをやれば50%なり70%なり出すとか、そういう補助金の出し
方をしてはどうかという提案である。

(業者)

ありがとうございます。皆さんそれぞれのご意見をいただいた。時間は押し
ているのだが、せっかくなので、もう少し深掘りして聞きたい、教えてほしい
ということがあれば、願います。

(委員)

よろしいか。都市計画の中に公共施設適正化というのがある。先日しおさい
公園にトレーニングに行くと、以前は200円だったのが270円取られた。僕は月
に10日ほど行っていたのだが、270円になると行くのがおっくうに感じる。今伊
予市は65歳以上が3割を超す現状である。そんな我々の年齢の者が1人でも行
きたいと思うと、有料化された所に行かないといけない。先日もフィットネス
に来てはどうかと言われたのだが、入ろうと思うと5,000円、7,000円というお
金がかかる。福祉文化センターでも高齢者が卓球したりバドミントンしたりはし
ているのだが、今回なくなるとどこに行けばよいのか。今回そちらのグループ
で高齢者に対する健康増進方法についての話が出たのか、出なかったのか。

(業者)

公共施設の利用の話ということでよろしいか。今のような意見は出たろう
か。

(委員)

出ていない。適正配置がうまくいってないのではないかと意見は出たも
の、その辺で止まった。

(業者)

ありがとうございます。ほかに聞いてみたいところはあるだろうか。

(委員)

よろしいか。上水道中水道の話はなるほどと思って聞いていた。以前から下

水道と合併浄化槽の話がちらほら意見で出ていたと思うのだが、その話には至らなかったのか。私の意見としては、このままの計画で財政が持つのかどうかという問題も含め、このまま行くとどうなるとか、合併浄化槽ならこうなるとかいう筋道だけでも、総合計画の中に入れると良いのではないかという気がする。

(委員)

時間が短い中に議題がたくさんあり、全てを論じきれの中身にはならなかった。ただ中水化することによって、全体の排水量が減るということはあると思う。

(業者)

ありがとうございます。私からも聞いてみたいことがある。道路や公園、都市計画全般の話や景観の話など、いろんな分野の話を出していただいたのだけど、皆さんが共通でこれが一番の問題だな、やった方が良いというものがあったかどうか。

(委員)

中心市街地の活性化は、みんなほぼ同じ意見だったと思う。

(委員)

よろしいか。中心市街地活性化と景観条例のことをおっしゃっていた。その具体的なアイデアは出なかったのか。

(委員)

具体的に郡中の中心市街地は、景観計画として、歴史景観に重点を置いて、そこをターゲットにやった方が良いということである。

(委員)

私が聞きたかったのは、今ある中心市街地に、インパクトのある方法・・・使い方とか具体的なお話があったのかということである。

(委員)

皆さんで意見を出し合う時間があればできたのだが、一つは公営住宅を造ることである。やはり商機能と住機能と景観と文化と、3つ4つの柱を同時並行的にやっていかないと、1つやって病気が治るということではない。もう重症だと思う。今度図書館・文化ホールができるけど、あれでは十分な機能を発揮できない。練習場や歴史資料とか入りきらないので、補完施設として、空き家を利用した歴史資料館など、イージーな感覚でやれるものが良いかなと思う。それから、世界中どこに行ってもツーリストインフォメーションというのがあって、外国人がぶらっと行けば、このまちに何があってどんな旅館があって、

どういうルートでどういう交通を使えばいいというのがあるのだが、日本にはほとんどそれがない。役所にデスクがあるくらいである。だからまち中にツーリストインフォメーションを作り、3～5か国語の表示板を作るとか、あまりお金をかけずに少しずつやっていけばいいなという気がする。

(委員)

先日、市街地周辺の地図を持ったカメラマンが施設を見たいと訪ねて来られた。藤村石油や増福寺、太子堂、もちろん灘町も出ていたのだが、説明するにも離れすぎている。時間がないと言われるのだが、30分で見ようと思うとぐるっと回るだけで文章も読めないですよ、と言った。説明している時間も貴重だと思い、あなたの好きなところに行ってくださいやという感じで投げた。伊予市も内子みたいに歴史的な建物が集中していれば非常に良いのにというのを感じた。

(委員)

今ある建物を動かすわけにはいかない。ただ、距離的には2kmくらいの範囲内に全部入っているから、十分集中していると思う。確かに途中特に見たくもない普通の建物がいっぱいあるから、距離的には離れている印象を感じるのではないか。

(業者)

ありがとうございます。先ほどの話で、交通と商業開発は分化した方がいいという話もあり、郡中を守っていくという方向で言われたのかなという気がする。それではここで一旦区切らせていただく。5分程度休憩を取った後、残り2班の発表を進めたいと思う。

【休憩15:35～15:40】

(業者)

それでは残りの発表を進めていく。まず子育ての分野からお願いする。

(委員)

まず保育所の課題が重要だという話をしていた。先日保育所に入れない待機児童が50人くらいという話だったのだが、今年私立の保育園が1つできたので、今は14人にまで減っているということである。ただ、その14人の保護者の方は仕事に差し支えが出ている状態なので、まずは保育所に入れるような環境を作らないといけない。場所はあるのだが、働く保育士が不足しているのが問題のようだ。伊予市は県下でも保育士賃金が最下位に近く、働くメリットの一つとして、とにかく給料をあげないといけないと思う。これは早急に行政が改善しないといけない問題である。それからモンスターペアレンツの問題があ

る。保育士は以前と比べ、かなり神経を使って大変だと思う。先日子どもの服がちょっと汚れたと血相を変えて謝りにきた。私からすれば当たり前のことだし、元気に遊んでいる証拠だから、少々の怪我くらい何てことないのだが、泣きそうな顔をして言われるのをみると、そういう親が結構いるのだろうなと考えてしまう。保育士が働ける環境改善も必要であるが、親の意識改革も重要だと思う。給料が安く、親からクレームが入っては、保育士のモチベーションは上がらない。その環境を変えることも、保育士が集まる一つの方向かなと思う。

話は変わるのだが、特に外から入ってきた人にすれば、これから自分の子どもがどのようなところで見てもらうのか不安なところもあると思うので、事前に園庭を開放する機会を増やして、これから入ってくる親御さん同士が事前交流できる機会があれば、不安もなくなるのではないかと思う。

次に、以前も話した件である。保育所は午後6時までとなっているのだが、松山でフルタイム働く人は6時には間に合わない。やむを得ずパートに制限されるということもあるので、保育園の最低1時間延長が課題になってくる。

それから病時保育について。保育所の待機児童がいなくなっても、風邪や嘔吐下痢のシーズンになると、3日4日休まないといけないし、きょうだいがいると移ってまた3日4日となる。そうなるフルタイムで働くことは難しい。看てくれる身内がいればいいのだが、そういう人ばかりではない。今後移住に力を入れるとなると、単独で入ってくる世帯もあるので、病気になった子どもを看てくれる施設は必要不可欠な問題である。ファミサポという、一時的に子どもを預かってくれるシステムがあるのだが、1時間700円かかる。半日見てもらうと3、4千円かかってしまう。システムそのものは良いのだが、費用的な問題がかなり大きいのではないか。1時間2時間くらいならいいのだが、毎日預けると結構きついので、例えば月額制にするとか、料金システムを変えるのも重要な課題だと思う。あと、このファミサポのシステム自体知らない人が結構いる。広報も頑張っているとは思っているのだが、パンフレットを見ても活字が多く視覚的に分かりづらいところがある。前に紹介のあったイラストなどを加えて、伝えるようなパンフレットを出すと分かりやすいと思う。

次に保健の関係であるが、我々の班では健診無料化を推している。理由として、健診無料化によりコストはすごくかかると思うのだが、そこで小さな病気を見つけるなど、予防をしていれば大きな病気にはつながらない。大きな病気になると医療費がとにかくかかり、財政負担につながる。そう考えると、健診を無料にする方が、後々を考えたときにメリットが大きいと思う。伊予市の高

齢社会が進んでいく中で、とにかく医療費がかからないよう早め早めに予防するシステムの仕組みが作れたらどうかという意見が出た。

市民については、元気な高齢者をもっと増やして、高齢者をどんどん活用できる仕組みを作らないといけない。これから高齢者は増えていく一方なので、例えば朝の見守りで外に出て子どもと交流する機会を増やせば、高齢者も家にこもらない。元気に活動できるきっかけになるのではないか。65歳から85歳の健康を増やすということは基本計画にも書いてあるのだが、今よりもっと活用の幅を広げて貢献してもらえれば、高齢者も充実した毎日を過ごす一つのきっかけにもなる。この65歳から85歳までを健康寿命と言うらしいのだが、この20年をどれだけ地域のために使ってもらうかは、これからの課題である。

最後に読み聞かせであるとか、地域の人と交流する機会を増やすためのボランティアを推進すると良いと思う。

(業者)

ありがとうございます。子育てと保健ということで、保育士の待遇や、保育士を増やしていくためのいろいろな環境整備の話。健診の無料化というテーマは大きい話かなと思った。今のお話で、これだけは聞いておきたいということがあれば、挙手いただけるだろうか。はい、どうぞ。

(委員)

子育て支援の話については、少子化・人口減少問題の文脈の中で議論していただきたいという思いがある。現在の子育てニーズに対応できていないという現実があるので、それを解消する話はよく分かったのだが、もっと言えば、伊予市が保育余力を持たなければ、人口減少に歯止めはかからない。現状260人前後の子どもが生まれている現状に対応できていない。これが300人以上いないと、2032年には30,000人を割り込むわけなので、それを阻止するために計画を立てないと、間に合わないから絆創膏を貼るという話ではなく、どれだけ保育余力を持てるか、子ども300人以上350人くらいの保育余力を持てる仕組みをどうやって作るかという議論があればいいかなと思った。

(業者)

はい、全体の数の話とシステムの話である。特にそのような話は出なかったか……出てないならそれで結構である。

(委員)

保育園を作るというのではなく、今はよそでも子どもを預かる家庭を作ろうとしている。保育士は少ないし、実はパート先にもなる。自分が預かることによって、働きに行かなくてもお金、収入が入る。預ける側も仕事ができる。そ

の代わり市がちゃんと保障できる制度を作らないといけない。推進するためには条例の整備も必要である。そういうことも提言に入れていただきたい。

(業者)

そういう意見も入れていただくということによろしいか。

(委員)

健診の無料化ということであるが、特定健診の無料化ということだろうか。それともがん検診も含めた全ての健診の無料化ということだろうか。がん検診を含めると自己負担が1人9,000円くらいになる。トータルで考えるとすごくたくさんの費用が必要になるし、狭く考えれば特定健診（1人1,000円）に限って無料化する方が、行政から考えると良いのではないかと思う。自分の健康は自分が守るというのが理想なので、ちょっとした健診のお金は出して、自分の健康は自分で守り、その後の生活の軌道修正も自分がしていくのが一番大事ではないかと思う。

もう一点、健康寿命について言われていたのだが、概念がちょっと違う。健康寿命は、平均寿命から寝たきりとか介護の必要な期間を除いた期間で、男性70歳、女性73歳くらいと言われている。

(※2010年厚労省算出　： 男性　平均寿命79.55歳、健康寿命70.42歳
女性　平均寿命86.30歳、健康寿命73.62歳　)

(委員)

今の意見、市で何項目かの定期健診があろうかと思う。差し当たって血液検査とか重点的にやってもらえれば、自分の道標というか、結果によっては運動しないといけない人も出てくるだろうし、血糖値がこんなに高かったのかと再認識すると思う。そういう定期健診の受診率を上げないと、国民健康保険で大変な出費になるという危惧を抱いて言わせてもらったのであり、正直どこまで無料かは正直決めていなかった。そういう意味合いでしか答えは出ていない。

(業者)

ありがとうございます。それでは最後になる、高齢者と福祉関係について、お願いします。

(委員)

福祉・医療の高齢者が中心になる。まず、行政と市民の中間領域のところに集いの場を作ろうということとなった。居場所づくりであるとかサロンの数を増やすとか、空き家などを利用して介護家族の定期的な集まりをして、知識の普及に努めるとか。今はサロンには出席するけれど、老人会に入る人は少なくなったという意見もあった。それから介護予防を充実させて、運動できる場所

も必要だという意見もあった。

次に地域デビューという支援の仕組みが必要ではないかということ。定年まで働いて、企業組織の中の自分しか見当たらない人は、地域の中ではなかなか難しいおじさんになってしまうという風土もある。また、引きこもりの人もいる。そういう方々に対して地域デビューということを考える必要がある。

老人会という項目の中では、老人クラブも大事だし、介護予防も来やすくなるようすべきである。行政職員はOBを積極的に勧誘することも必要ではないか。老人会では30年間料理教室をしており、楽しみにしているものの、人数が減っているという意見もあった。

ボランティアという項目の中では、介護予防ボランティアを養成して、地域で介護予防を担える人材を育成すべきである。あるいは生活サポート隊、元気な高齢者が近所の子どもをサポートするようなもの。もう一つ、ボランティアの入口をどうするか。ボランティアの受け入れ施設はあるのだが、そこに行つて私ボランティアやりますという人はなかなか現れないだろうと思う。そういう入口の制度的枠組みを作る必要があるのではないか。これは市民討議会の議論の中でも出したのだが、裁判員制度の要領で抽選によって学習会に参加してくださいという案内をして、きっかけ作りということでボランティアの入口の整備をすべきではないかと考えている。

情報という枠組みの中では、情報の共有化が必要ではないかという意見があった。いろいろな施設や広報があるのに、知らない人が多すぎる。啓発が必要ではないか。また、災害業者の個人情報については行政と地域が把握する必要があるのではないかという、これは個人情報保護とは決別するわけであるが、災害というキーワードを乗り越えないといけないのではないか。南海トラフ大震災も含め、枠組みをもう一度考えていく必要がある。

それから地域公共交通の問題に関心があるという意見。市の特定健診は国保だけなのだが、健康保険加入者の家族も受診できる保健指導をしてほしいなと。そういう意味でここも枠組みが欠如しているのではないか。

交流というキーワードの中では、三世代の家庭が少ない、そういう三世代交流の仕組みの促進を図れるのではないか。あと子どもが減り、土地やお墓に不安が出ているということである。それから有償ボランティアも考える必要があるのではないか。高齢者イコール弱者という発想は、行政も市民も克服していないといけないのではないか。元気な方も豊かな方も結構いる。逆に格差の問題が出てきている。高齢者の貧困問題はかなり深刻な問題であり、老後破産が社会問題としてNHKでもよく取り上げられている。そういうことに行政は

積極的に取り組むべきではないか。つまり生活保護に当てはめるということではあるのだが、一律にオールオアナッシングで考えるのではなく、3万円を12万円にするという話でいいのか、それともあと3万円あれば何とかなるということであれば、3万円分の有償ボランティアができる仕組みづくりもあっていいのではないか。例えば離婚されたお母さんで子どもが3人いる。子育て中だから生活保護しかない。本当にそうなのか。有償ボランティアの仕組みを1回作って、1時間でも30分でも草刈りに参加するといった仕組みづくりをすれば、ローコストでそこそこ充実した生活が送れるような仕組みづくりができるのではないか。それから、高齢者という概念そのものも見直してはどうか。ある自治体では70歳以上とか75歳以上でないと呼びませんという宣言を出した自治体もある。高齢者をどうこうというより、弱者に対してはピンポイントで支援する。だけど高齢者は65歳とか70歳とかいう話ではないということを、もう一度行政レベルでも見直して、基本計画の中に入れたらどうだろうと思う。

私の個人的意見であるのだが、ここの予算を子育てに回さないといけない時代である。先ほど子育てで保育余力と言ったけれど、ある保育所の方の話を聞くと、松山から電話がかかってきて、お宅に入れるなら移住したいという話もあったけど、現状が無理なのでお断りしたということであった。そういう意味では、伊予市の喫緊の課題というのは、子育て支援の充実というか、ニーズに対応するための充実ではなく、余力を付けることが人を引き込める要素となる。本当は中山、双海の保育園は無償化すべきだと思う。そうすればそこそこ人がやってくる可能性が開けてくるので、余分な提案であるが言わせていただく。

(業者)

ありがとうございます。それでは最後になるのだが、これだけは聞いておきたいということはあるだろうか。よろしいか。

長い時間になったのだが、それぞれの発表をいただいた。それぞれの分野に合わせた形でいろいろアイデアや取組についてご意見を出していただいたので、これをもって総合計画の具体的な施策、計画の検討に出していく形になるかと思う。本日の議論について、そのまま市に引き上げる形を取らせていただきたいと思います。冒頭に話があったとおり、まだ話足りないということがあれば、設定を考えるので、市にご意見いただければと思う。本日については、それぞれの班の発表で一区切りとしたい。次回は住環境・生活安全と教育・文化というテーマを予定している。前回この2つの分野において皆さんの希望により班分けはしているのだが、本日のようにテーブルによってテーマを絞ること

があるかもしれないので、皆さんの要望が聞ける形で考えたいと思う。その上で、今回と同様のやり方で進めさせていただければと思うので、よろしくお願いします。

(2) その他

(事務局)

本日は長時間、大変熱心にご議論いただき、ありがとうございます。それぞれの分野において深いお話ができたのではないかと思います。本日頂いたご意見については、基本計画の検討に当たり参考にさせていただきたい。

その他として、前回の審議会の議事録を配布している。確認の上、修正点等あれば事務局へ連絡をいただきたい。

今回は住環境整備・生活安全及び教育・文化ということであり、本日と同様事前に資料を配布したい。

(3) 次回の審議会日程

(事務局)

次回の審議会日程は、6月第2金曜日の12日、午後1時30分からさざなみ館において開催するよう考えている。また、本日配布した資料②に第18回まで日程が入っている。したがって、今回は6月12日（金）、さらに次は7月10日（金）さざなみ館で開催する予定であるので、引き続きよろしくお願いします。

(会長)

皆さん何かないだろうか。よろしいか。それでは本日はどうもお疲れさまでした。以上で会を閉じる。

午後4時15分閉会